

No
30

自分の思い通りにならない状況があることが分かり、
自分はどうしたらよいか考え気持ちを調整しようとする。
…人とかかわり…

みんなと一緒に！

仲間の励ましを受け止め、
発表会活動に前向きに参加する

11月

☆ 視点に関わる背景（10月頃の状況） ☆

鬼ごっこやサッカーなど群れて遊ぶことが多くなり、様々な場面で友達と考えを言い合い、受け入れ合いながら、友達とのつながりがより深まってきた。一方で自分の思うようにならないことにも出くわし、自分の気持ちに折り合いをつけるところで葛藤することも多くなってくる。

☆ 接続期の状況（生活発表会練習の時間） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<ul style="list-style-type: none"> 12月初めに行われる生活発表会。保育者は、発表会練習を主体的に進められるように遊戯の曲を皆で相談して決めることを提案した。 保育者は、子どもたちの要望を受け止め、何曲か音楽を用意する。 子どもたちは、教師の用意した曲を自由に聴いたり踊ったりした上で、2曲を選ぶ。さらに、自分は2曲のうちどちらに出たいか選択する。 Aは、踊りと樽太鼓を打ち鳴らす構成で勇ましい様子を表現する遊戯「よさこいソーラン節」を自ら選んだ。 しかし、ある日、Aは、教師に対して「もう、踊らない！やらない！」と発言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> Aのこうした場面に何度もかかわっていた保育者は、対保育士ではなく、Aと仲間がかかわっていくような状況作りをするために、仲間に対して、「Aが踊らないって言うてるんだけど。揃わないと踊れないところあるよね…」と働きかける。 Aに対して、「やりたくないなら仕方ないね。お母さんががっかりするかもしれないけれど。」「本当にやりたくないの？…」と、Aが自分の本心を見つめるきっかけとなるような声かけをする。 保育者は、Aに時間を与えることにより自分の気持ちに折り合いをつけられることを期待し、その日のグループ練習の終了を提案する。 保護者には今日の状況を伝え、「発表会に出て欲しい。」という親の思いは言わず、Aの思いを受け止めながら、話を聞いていただくよう依頼する。 Aが踊りの動きでわからないところがあるために踊りたくないと思っていることを母親から確認した担任は、Aが不安に思っている部分について一緒に踊るグループの仲間に伝える。 「A君、自分で踊って決めたんだね。」と、自分で決めたことを褒めるように声かけする。
<ul style="list-style-type: none"> 一緒に踊るグループの仲間は、Aの様子に驚き、Aを囲んで声をかける。 B：Aが踊りにいなかったら寂しいよ。 C：練習しなかったら、発表会の時に踊れなくなってお母さんがっかりするよ。 D：僕だってはじめはうまく踊れなかったんだよ。教えるからやってみようよ。 Aは泣いて、友達の言葉に耳を傾ける様子を見せない。 A：やらない！ 発表会なんて出なくていい！幼稚園に来ない！ 仲間もどうしていいかわからず、その日の練習は、継続不能となる。 翌日、登園してきたAは、まだ発表会に出るか決めていなかったが、同じグループの何人かが動いて見せると一緒に動き出す。 仲間に「カッコいい！」と認められると、Aは、「僕、やっぱり踊ることにする。発表会です。」と声をあげる。 仲間から、「やったあ！みんなで練習できる！」と喜ぶ声があがる。 	

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

気持ちの切り替えができなかったり不安が強かったりする子には、学級で存在感をもって過ごせるよう、仲間の力によりその子が変容する力を信じて見守るような接し方を大切にしている。この時期の保育者は、子どもたち同士の話し合いやかかわりがよりよい方向に向かうように、共に考えたり調整したりする存在であることが多い。